

2023/11/10 開催 いけんひろば
～いま、そして、これからの環境問題や社会について思うこと～
いけんのまとめ

1 班（小学生世代 3 名）

【テーマ：いま、そして、これからの環境問題や社会について思うこと】

○「環境問題」と聞いて思い浮かぶことはどんなことですか。

- ニュースで聞いた地球温暖化が思い浮かんだ。
- プラスチックごみの問題が深刻だと思った。海水浴場に行ったとき、ごみがたくさん落ちていた。
- 最近地球全体で暑くなっている感じがする。夏は気温も高くなっているのに、地球温暖化が真っ先に思い浮かんだ。

○環境問題に生活を脅かされると感じたことはありますか？

- 今よりもっと地球温暖化のせいで暑くなるかもしれない。熱中症で死者も出ている。夏は危険なので、生活の危険が脅かされていると思う。
- 魚がプラスチックを食べて、人間がその魚を食べると体に悪いので、生活が脅かされると思った。
- 魚がプラスチックを食べている問題について、自分たちがその魚を食べると有毒なので、生活が危険になるなと思った。

○日本の環境問題に対する取組は進んでいると思いますか？

- 他国はレジ袋を禁止しているが、日本はただ有料にしているだけなのであまり進んでいないと思う。
- そこまで進んでいないと思う。ごみ拾いイベントに参加するとドリンクがもらえる。SDGs の取組がもっと進めばいいと思う。
- 日本の環境問題への取組は、他国と同じくらいだと思う。SDGs に取り組もうとしているが、もっとがんばれば他国を追い越せるかもしれない。

○30 年後の世界の環境はどのようになっていると思いますか？

- 海にごみが大量に流されて溜まり、環境資源が無くなっていると思う。
- 地球温暖化が進んで、北極の氷が解けて無くなるかもしれない。また、アフリカで干ばつが酷くなり、食料が育たなくなって国連も手に負えない状況になっているかもしれない。
- 人間が普段から環境に配慮し、SDGs をがんばれば、今と変わらないくらいには世界の環境は維持できると思う。
- 北極の氷が解けている問題は、もしかすると変わるかもしれないと思った。
- 北極の氷が解けると海面が上昇するので、小さい島が沈んでしまうと思った。
- 自分も詳しくはわかっていないが、二酸化炭素を増やしすぎたせいで地球温暖化になっている。北極の氷が解けないようにするためには、二酸化炭素を増やさないことを心がけた方がいいと思った。

【テーマ：環境問題を学ぶことについて】

○環境に関することを学んだことはありますか？どこで、どんな内容を学びましたか？

- SDGs について、ニュースで聞いた。その関係で SDGs を自主学習のテーマにしたことがある。「海の

豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」という目標があったのを覚えている。

- 本で SDGs や環境問題について読んだ。また、別の本で食糧危機について読み、食料がどんどん減っているということだった。イナゴがトモロコシを食べてしまった等の話が気になった。
- 環境を良くすることを目的とした習い事で、SDGs について学んだり、海にごみ拾いに行ったりした。
- ニュースで食品ロス問題を観た。支援のためにアフリカのこどもに送る食べ物よりも、食品ロスの方が多いいことを学んだ。
- 学校で 3R を学んだことがある。
- 学校で 3R を習った。学校の近くに海岸がある。海岸の砂を使った工芸品を作ったことがある。

○学んだ内容は普段の生活や活動にどのように活かしていますか？活かせていない場合は、どうなったら活かせそうですか？

- 習い事でスーパーでは袋が有料と知った。マイバッグを母が持ち歩くようにしている。
- 親がマイバッグを持っている。
- 食品ロスに関連して、おかしを買すぎていると思う。
- 食品ロスについて、公民館などで学べる講座があると良いと思う。
- 学校の授業で街のごみ処理施設の人に来てもらい、ごみを減らす方法を教えてもらったが、家族に対してそれをどう伝えるかが難しかった。
- SDGs 配慮商品を買っていないので、活かせていないと思う。

【テーマ：ごみ問題とリデュース、リユース、リサイクルについて】

○普段の生活の中で、ごみについてどう考えていますか？

- ごみはあまり良くないと思う。
- リサイクルできるものもあるが、資源であるような、ないような気がする。
- ごみは再利用すればいいものだが、燃やしてしまうといいものではないと思う。
- プラスチックなどお金がかかりそうなものはあまり使わないようにする。

○ものを長く使ったり、一度使ったものを再利用（リユース）、リサイクルしやすいように何か行動したり、意識していることがありますか？

- 色々な人が集まる場所で再利用やリサイクルを「こういう風にやるといいですよ」とやり方を紹介する機会があると思う。
- 大きなスクリーンで PR 映像を流すとみんな見てくれると思う。
- ごみは買すぎなければ増えない。あまり買すぎないように意識している。
- プラスチックごみをリサイクルできるリサイクルごみ箱がショッピングモールにあるので、そういうところにごみを入れるようにしている。
- 自販機の近くで入れたごみをリサイクルしてくれるごみ箱を見たことがある。

○もののレンタルサービスや中古品の利用についてどう感じますか？

- フリーマーケットやリサイクルショップだと、値段が高くてあまり買う気になれない。国の補助でもう少し安くできれば、みんなが利用しやすいと思う。1 回利用すると安心できて、何回も利用すると思う。
- 中古品がちゃんと使えればいい。中古品は安く買えるがときどき壊れている。
- 自分の家の車も中古品だがきれい。中古品も良いなと思った。

【テーマ：環境問題に対する行動について】

○環境に良いことをするひとについてどう思いますか？

- いい人だと思う。
- 環境に優しい人だと思う。みんなにそうなってほしい。

○環境に良いことをするひとが増えるためにどのような仕組みやツール（例えば動画や資料等）が必要だと思いますか？

- 衛生面は気になるが、外国みたいにおかしを袋に入れなくて売ると環境にいいと思う。
- 個包装されているおかしは、袋に入れなくても衛生面は変わらないのではないかと。袋を付けなければその分価格が安くなるならいいと思う。
- お店によってはジュースを買うとプラスチックストローではなく、紙ストローが付いてくる。ファストフード大手はプラスチックストローを使っている。日本政府がプラスチックの使用を止めることを大手企業に伝える取組をしてほしい。企業で働いている店員が「プラスチックを使ってはいけないんだな」と認識し、そのことを店長に伝えればそこからプラスチックを使わない取組が広まっていくと思う。
- 大きな企業だと、少くも売上が落ちて大丈夫そう。大手企業の方がプラスチックの使用を止めることに取り組みやすいと思う。
- スナック菓子はプラスチックでなく紙の袋にも入れられそう。プラスチックの容器をどんどん紙にしていけばいいと思う。
- 二酸化炭素が増えている。ガソリン車ではなくハイブリッド車や電気自動車を選ぶと二酸化炭素の排出が減るので環境にいい。ただ、ハイブリッド車は高そう。国が自動車メーカーにお願いしてハイブリッド車など環境に優しい車をもう少し安くできないか、交渉してもらえるといい。
- ハイブリッド車は、発電設備が必要だから高い。ハイブリッド車よりも走れる距離は少ないが、電気自動車も良いと思う。
- 国の電気自動車に対する補助金があるが、少ししか補助されない。補助額をもう少し増やすと電気自動車を買う人も増えて、二酸化炭素を排出する車が減るのではないかと。
- 海の近くの飲食店では、焼きそばなどの食べ物プラスチック容器に入っている。プラスチック容器を海に捨てて帰る人が多い。テレビ CM でもいいので、国がごみを捨てないように発信すればいいと思う。
- 国に近い公務員が発信するといいと思う。どんな内容が発信すればいいかは分からない。
- 「あなたの 30 年後の未来はどうなっていると思いますか」と汚れているビーチの映像を使った CM を流すと、海が汚いことに気づけて、「ごみを捨てない方が良い」と思う人が増えると思う。

- プラスチックごみを燃やすと二酸化炭素が出るので、プラスチック商品を減らすといい。そうすると30年後はごみだらけになっていないと思う。
- プラスチックを減らすために、おかしは布に包むといいと思う。
- 水を使って強い素材を作る技術があると雑誌で見た気がする。
- 映画館でポップコーンが入っている容器は、食べ終わってもまた遊んで使えるのでいいと思う。
- 学校の授業でアパレル企業や省庁の人が特別にSDGsの授業をした。ごみを増やさないことが大切という授業を受けて、こどもがその授業の内容を親に教えた。親がそれを知ると、ママ友や友達などいろんなところに知れ渡ってくると思う。特別な人が来て授業をしてくれるとワクワク感があるのでいい。
- 学校で環境の授業は必ずやるわけではない。学校で環境の授業を必須にすると、みんな興味が湧いて環境への取組を当たり前に思ってくれるかもしれない。

2班（中学生2名）

【テーマ：環境問題に対して思うこと】

○環境に興味がありますか。

- 元々興味がある。地元の自治体が開いている環境に関する会議に参加していて、今回のいけんひろばでさらに新たな知識や考えを得られたらいいなと思っている。
- 環境に興味を持ち始めたのは、小学生の頃に屋久島の自然に関する本を読んだことがきっかけ。それまでなんとも思っていなかったが、その本を読んで、自然環境が危ないと思って興味を持ち始めた。今度、自分の住む自治体でこども会議があり、自分はその会議のエコ班に所属している。

○環境問題に生活を脅かされると感じたことはありますか？

- 夏の暑さに生活を脅かされていると感じる。こんなにも暑いと外に出たくないと思うようになり、自分の行動が制限されることに驚きを感じた。夏休みに文化祭の準備で学校に行く日があったが、朝から暑いし、アスファルトの照り返しも強かった。日焼けをするも嫌なので、外に出ることにネガティブなイメージがついた。外に出る機会や楽しさが減ってしまった。
- 自分もそう思う。気温が年々上がっている。友達と一緒に登校するときに、会って第一声で「暑い」と言うことが多い。ネガティブな話から入ってしまうのが嫌だなと思う。登校中に、熱中症の人が救急車で運ばれるのを見たり、光化学スモッグの問題があったり、暑さで虫が干からびているのを見たりする。周りの光景が一見普通に見えて、死んでいるのが嫌だなと思う。冬にはインフルエンザや細菌などの脅威もあるが、それは仕方がないものであり、人間だけに影響があるもの。夏の暑さの脅威は、人間を支える生物がいなくなってしまうかもしれないところ。人間に対する医療が発達しても、他の生物が危機にさらされていると、このままでは地球が減びるのではないかと感じる。
- 小さいころ、沖縄の島にサンゴ礁を見に行ったことがある。数年後にテレビで同じ島を見たとき、そのサンゴ礁がなくなっていて衝撃を受けた。数年という短い間になくなってしまったのかとショックだった。他にも身近な例でいうと、マンションの清掃で、土の上に落ちた葉っぱに風を当てて掃除しようとしているのを見ると、そのまま残して肥料にすればいいのにと思う。そこまで掃除してしまう必要はないと思う。公園も癒しの場だったのに、枝や葉っぱが切られてしまっている。どうしてそこまでして木を切りたがるのか疑問。身の回りの自然を大事にしてほしい。私たちの生活も元をたどれば、ミズがないと土も育たないし、連鎖しているものを大事にしてほしい。
- 自分の学校付近は人通りが多くて、ポイ捨てごみが多い。路地が狭いと治安も悪くなっている気がする。そういった面からも自分の生活が脅かされるのかもしれないと思う。

○日本の環境問題に対する取組は進んでいると思いますか？

- 環境省が存在することは知っているが、環境に関するポジティブなニュースはあまり聞かないので、取組を良く知らない。
- ストローがプラスチックから紙になったり、ビニール袋が有料になったりという身近な取組は知っている。
- ビニール袋の有料化の取組でマイバッグを持つ人が増えたのを見て、人はお金で動くんだなと思った。

○30年後の世界の環境はどのようになっていると思いますか？

- 平均気温が高くなっていると思う。暑い日は 45℃くらいになっているかもしれない。生き物が今よりいなくなっていそう。農業も出来なくなって、食べ物が人工的なものになっていそうでこわい。
- このままのペースだと海面上昇で島が水没して、国が消えたりするのかなと思う。他にも、アフリカなどでは人口が爆発的に増えて、限られた土地を広げるために森林伐採が進行してしまうと思う。
- 学校の授業で、北極のアザラシがミイラ化している話を聞いた。北極には食べ物もなくて、氷もなくなっているから、湖の方に行って人間に助けを求め、自分から陸に行ってミイラになってしまうという話だった。いつか北極にいた動物たちはいなくなって、動物園でしか見られなくなるのかもしれない。

【テーマ：環境問題を学ぶことについて】

○環境に関することを学んだことはありますか？どこで、どんな内容を学びましたか？

- 小学校の社会の時間に「世界の環境」という学習単元があって、一般常識的なことを学んだ。道徳や総合の時間でも SDGs について調べた。中学に上がってからは、環境について触れる機会が少なくなってしまった。なぜ機会が減ったのかは疑問。
- 若者で構成される地元の自治体の気候変動会議に所属していて、「今日から出来るエコ習慣」など様々なものを議題として扱っている。その会議には環境を良くするための取組を考えるというゴールがある。ちょっとしたきっかけでよい行動を促すナッジ理論が大事ということを学んだ。例えばごみ箱をバスケットゴールの形にしてみんなが捨てやすくするなど、日常の中で違和感なくできるエコアクションが必要であること、また、環境にいいことをしている人たちの中にいることで同調圧力がかかり、危機感を覚えて行動につながるということなどを学んだ。自治体の広報で会議のメンバーが募集されているのを母が見つけ勧められて、参加した。
- 小学校で屋久島の本を読むなどして環境問題について学んだ。小学校の成績表に「自然に関しての関心意欲」といった欄があって、そこに○を付けたかったこともあり、ニュースを積極的に見たり、自分で調べたりしていた。ニュースで特に印象的だったのが、森林火災のニュース。あまりの辛さに号泣して引きこもったときがあった。中学校に上がってからは、暇があったら勉強しないといけなくなり、以前よりは調べたりできていない。SDGs を小学生が知っていたりして驚く。住んでいる自治体のこども会議に参加していて、例えば、街にごみ箱を置くかどうかなど、自分たちが今抱えている問題に対して具体的な案を議論する。あまり新しい知識を得る場ではないが、そこで他の人の案を聴くなどして関心を高めている。母が環境の話に敏感で、家族にチャットツールで情報共有をしてくれる。
- 社会の研究授業で、毎回 SDGs 関連の授業がある。新しく配られた公民の教科書には、ページ下の方に「これは SDGs の○○にあたる」などと書いてある。SDGs という言葉自体には触れる機会が多い。英語の授業でもプラスチックバッグに関する文章を読んだり、英語の Writing の材料のために、自習的に環境問題について調べたりする。
- 自分も英語の授業で環境問題に関する内容を扱うことがある。他の授業ではほぼない。学校の有志団体にも所属していて、学校の近くでごみ拾い活動などを行っている。海問題というテーマに特化し

ている団体なので、発表のために海に関して調べたりする。

○学んだ内容は普段の生活や活動にどのように活かしていますか？活かしていない場合は、どうなったら活かそうですか？

- プラスチックバッグやエコバッグを見ると、前に見たやつだ、学んだやつだ、と思う。実際にエコバッグを持つようにしたり、紙ストローを選んだりしている。環境を学び始めて、小さな積み重ねが大切だと思うようになった。コンポストをするなど、「もったいない」を減らすように気を付けている。給食の残食も減らしたい。ごみを減らすことから始めたいと思っていて、食べ物を残さないようにしている。
- なるべく米でも胡麻でも一粒も残さないように食べている。ご飯を食べ終わった後にお湯を注いできれにお茶漬けで終わらせるということもしている。
- 最近ひとりひとりの行動が大事だと痛感している。前までは自分一人が変えたくらいじゃ変わらない、と思っていたが、話を聞かたびにひとりひとりの積み重ねが大事だと感じる。気が付いたら使っていない電気をすぐ消すとか、冷蔵庫は開ける時間を減らすために何を取り出すか考えてから開けるなどしている。コンビニで飲みたいものがプラスチック容器だとやっぱりやめようと思うことがある。

【テーマ：ごみ問題とリデュース、リユース、リサイクルについて】

○普段の生活の中で、ごみについてどう考えていますか？

- ひとつずつと疑問に思っていることがある。自分が住んでいる自治体は分別を細かく求めている、ボトルからラベルやキャップを外すのは当たり前で、ボトルを洗浄して近くのスーパーで潰してもらい、小さくしてからやっどごみとして出せる。他の自治体だと、ごみは全部ごちゃまぜで捨てられると聞いた。地域差があることが疑問。他の自治体では分別しなくていいとなると、意味がない気がしてしまう。
- 給食の牛乳を、小学校のときはたんでケースに入れて、ストローもまとめていた。今はこどもの意見でプラスチックストローも廃止になっている。一方で中学校では、牛乳パックもたたまず、プラスチックストローをせつかく廃止したのにプラスチックの袋に入れて捨てていて、自治体がやっているプラスチックごみに対する処理はどうなっているのだろうと感じる。
- 自分の住んでいる自治体ではなんでも燃えるごみとして捨てられるようになっている。ごみの行方も分からない。行方が分かれば分別で貢献できている実感が出る。分別方法に自治体ごとの違いがあると、細かく分別している人からすると微妙な気持ちになってしまう。

○ごみ処理場に行ったことはありますか？

- ない。ごみ処理場で出た熱を使って温室をやっている施設に行ったことはある。
- 小学校のときに、ごみ処理所の人々が来て、分別や処理の方法を教えてくれた。その時に、30年もしたら今あるごみ処理場が埋め尽くされて、埋める場所がなくなり汚染されてしまうという話を聞いた。

○ものを長く使ったり、一度使ったものを再利用（リユース）、リサイクルしやすいように何か行動したり、

意識していることがありますか？

- リユースをしている。食材の宅配サービスがあって、牛乳瓶は回収されて洗浄され、紙パックも使いまわしが出来る。衣服もアプリを利用するなどして地元で売り買いできる。公民館では衣服を捨てて、新しいものをそこでもらうことも出来る。そこでものリユース・リサイクルが成り立っている。新しく買ったリ、余分なごみを排出したりすることはあまりない。
- 自分が使っていた本や服や絵具セットなどを、捨てずに従兄弟に譲っている。従兄弟も喜んでくれる。

○もののレンタルサービスや中古品の利用についてどう感じますか？

- 非常に良いサービス。フリマアプリが普及して、誰かがいらぬものをもらうのが簡単になってリユースも進んでいる。一方で、中古品という誰かが使ったもの、汚いというイメージもあるが、そこは環境のことを考えて使ってほしい。古いという字が入るとイメージが悪いのかもしれない。
- ものを売ったり譲ったりするときに、商品の一部を使っただけで中古品という言葉になってしまう。その言葉が入るだけで欲しいものの選択肢から外れてしまうこともある。言葉のイメージが強いと思う。たしかに汚いというイメージを持つが、例えば猫アレルギーの人でも、猫の毛がついていても洗えばアレルギーの危険を回避できるように、取捨選択をすればモノは使える。スーパーの値引きシールのついたものを買うのも、良い取り組みだと思う。自分は食べ物の賞味期限や消費期限が切れていても、ものによっては食べてしまう。みんなはそうじゃないことに最近気付いた。少しでも期限を過ぎたら捨ててしまう人がけっこういる。そもそも賞味期限と消費期限の違いを理解しているのかとも思う。

【テーマ：環境問題に対する行動について】

○環境に良いことをするひとについてどう思いますか？

- 心から尊敬する。自分の意識を変えるのは勇気のある行動だと思う。だが、本当にやろうとしていることが環境にいいことかは吟味する必要があると思う。例えば、紙とプラスチックストローはどちらが本当に環境にいいのかは検討が必要な問題。
- 自分が住んでいる自治体ではプラスチックを洗浄したりリサイクルしたりする会社が減っている。その中で環境のために頑張っている人がいることを知ると感謝しかない。そのような人がいないと、今の状態は保てないと思う。一方で普段環境のために頑張っている人に対してマイナスな考えを持っている人たちもいて、なんでなんだらうと思う。勇気のいることだし、やろうとしても仲間が見つからないし、1人でやろうとしても学校の勉強が忙しくて難しい。環境のことを知るだけでも時間を費やすのに、行動もできる人は本当にすごいと思う。

○環境に良いことをするひとが増えるためにどのような仕組みやツール（例えば動画や資料等）が必要だと思いますか？

- 環境へのアクションを促すサイトやアプリは今でもたくさんあると思う。それを徐々にまとめて、寄付したい人向けアプリ、実際に自分が行動してみたい人向けアプリ、情報を知りたい人向けのサイトなどにまとめてカテゴライズできたら見やすくなると思う。

- 見る人が多い SNS で配信するのが一番早いのではないかと思う。自分は映像配信サイトでドキュメンタリーをよく見る。衝撃的な写真がサムネイルになっているとつい見てしまう。今の時代はオンラインツールなどで身近に感じてもらえるよう情報を提供していくことが大切。この前、YouTuber が財務省などとコラボしていた。環境省もコラボできるのではないか。

○周りの友達や家族は環境に配慮した行動をとっていますか？どうしたら行動してもらえそうですか？

- 周りの人には、私がおかしいと思って発言しても「意味わかんない」と言われてしまう。みんな相応の知識や関心がないので、他人事にとらえている。人間は危機に晒されないと行動しないと聞いたことがある。環境が危ないということが体感できる施設があったり、教科書にもっと環境問題を取り入れて授業で扱ったりすると良い。ごみ処理場などの環境関連の施設に校外学習で行くのも良いと思う。まずはいかに関心を持たせるかが大事。身の回りのことをエコ化することを習慣化したら良いと思う。例えばファストフード店で紙ストローを提供することもいいと思う。ただ、プラスチックと紙はどちらが環境に良いのかは難しい。紙を処理するための洗剤や水も一定量必要になるし、どちらもどっちだかと思う。ハワイではプラスチックバッグが原則禁止でそれが当たり前になっている。プラスチックは控えた方がいいという常識がハワイにはあるから、そういった行動をとることができる。日本人は元々たくさんプラスチックを使っているから、それが常識になっているから、次の世代からは「プラスチックに代わるなにかエコなもの」を常識化していく必要があるのではないか。
- 同感。友達としゃべっていて環境の話が出てくることもない。環境の話題がないから、私も環境について話を振りづらい。何か小さな入り口から「それってエコじゃない？」というように軽いノリで環境について話せたら、少しずつみんなの意識も変わるのかなと思うけれど、なかなか実行に移せていない。環境について話すために、個人的には教育は大切だと思っている。もっと環境に関する授業をするなどして、小さい頃から少しずつ環境についての基礎知識を持ってもらい、環境に関する知識があることが常識になれば全体で環境に対する意識のレベルも上がるのではないか。
- 周りの友達は環境に対する興味が薄い印象がある。私が自治体のこども会議で出会った友達は生き物が大好きで、私も生き物は好きだが触ることはできない。だが、ある日「こわい」という常識を捨てて生き物に触ってみたらかわいくて、いいなと思った。その友達が理科の自由研究で、自分で飼っているカエルを解剖してみんなの前で発表したときに、驚いた反応をされていた。面白い、ではなくて、引いている反応だった。「生き物が好きな人は変な人」など、環境に対する偏見があると思う。環境の話ばかりしていると、細かいと言われる。面倒くさい人だと思われてしまうこともあって、そういった話を気軽にできないという人もいるのではないかと思う。自分の好きにつながる話をする、友達との間に壁ができてしまうこともあるので、気軽にできないのだと思う。
- 環境問題に興味があるかと聞いて、全くないという人はあまりいないかもしれないが、興味関心を深めようとする人は少ないと思う。カフェに行ったとき、紙ストローを最初から渡してくる店舗もあり、友達が「紙ストローは飲みにくいから嫌だ」と言っていて、それは自分の欲を優先させすぎじゃないかなと思ったことがある。他人の常識に干渉できたら、周りも巻き込んで取り組めていいなと思う。

3班（高校生世代4名）

【テーマ：環境問題に対して思うこと】

○環境問題に生活を脅かされると感じたことはありますか？

- 私が住んでいる地域では養殖業が盛んであるが、最近では海の調子が良くないと聞いた。周りに漁業に従事している人が多く、育てた貝を8割も捨てたことがあったり、捨てるために貝を取ったりすると聞いた。住んでいる地域は人口も少なく、漁業は厳しい状況であると聞く機会が多い。
- 集中豪雨により避難指示が出た時に、気候変動がおきているなと思った。ニュースでも集中豪雨の影響で水道や電気が止まるケースが多く取り上げられており、身近な問題だと思っている。
- 学校の近くに海があるが、プラスチックが流れついているのを見ると海洋汚染の深刻さを感じる。海岸清掃に積極的に参加して学校で呼びかけをしたり、商品開発のプロジェクトを実施したりしているが、みんなの環境問題に対する意識を上げることが難しいと思っている。
- 自分が小学生や中学生だった時と比べて夏は暑いように感じる。昔は夏休みに外で遊べたと聞くので、今後もっと暑くなると思うと生活が脅かされているなと感じる。

○日本の環境問題に対する取組は進んでいると思いますか？

- ペットボトルが潰せて廃棄できるようになったり、ペットボトルのラベルがなくなって売られていたりする。またスーパーではマイバックが普及しており、プラスチックの袋を持たなくてよかった。ごみの分類がされていないと、ごみ収集車がごみを持っていかないなど環境問題に対する取組は進んでいると思う。ストローの素材に紙を使用しているお店も増えた。また空港のチケットを紙ではなく、アプリで表示するなどペーパーレス化も進んでいる。
- ごみを出さない生活が増えたと思う。一方で発電方法に関するエネルギー問題や車の二酸化炭素排出問題など、大きな課題について情報が錯綜していると思う。大きな課題についてどんな議論がされているか情報が入ってこない。例えば電気自動車が本当に環境にいいのかわからない。国がどのような方針を持っているかわからない。私たちの世代は新しい意見をSNSで知ることが多いが、SNSの情報は信頼性が低いので信頼できる情報が知りたい。
- ごみ問題の解決や、教育の中で環境問題を教える取組は進んでいる。一方で二酸化炭素排出の問題については、環境への負荷よりも経済的理由による利便性が重視され、二酸化炭素の排出が進んでいるので改善した方が良く思う。
- 最近は環境に配慮した商品や政策などがあり、目に見える形で環境対策が実施されている。しかし、外国と比べると、環境問題に取り組む人に対する日本での世間の雰囲気には改善の余地がある。また日本では環境に良い行動を誘発する仕組みがまだないと思う。
- リサイクルの普及が進んできていると思う。リサイクルに対応しているお店が増えている。
- 私の住んでいる地域は林が多く、野放しにされていることがあった。自治体と協力してNPOが林を買い取り、林の環境への貢献度合いを調査したことがあった。行政が入ることによって、林の状態や環境が変わったと思う。
- 私は過疎地域に住んでいるが、耕作放棄地が増えている。現在は農業に関心がある人を都市から

誘致して、耕作放棄地を畑に生まれ変わらせる取り組みがある。地域の資源を有効活用し、地産地消を盛んにしようという取組が進んでいる。

- お店に買い物に行くと商品にエコラベルがついており、環境に配慮していることをアピールしている商品が増えていると思う。本屋やスーパーでも環境に配慮した商品のコーナーができています。消費者が買い物をしやすい環境になっていると思う。

○30年後の世界の環境はどのようになっていると思いますか？

- 30年後の環境は国によって違いが出ると思う。特に先進国と発展途上国の間で違いが出ると思うので、世界全体で環境が良くなるイメージはない。発展途上国の人口は増えるので、環境問題への意識よりも生活していくことが重視され、石炭など環境に配慮しないものを使用することがあると思う。
- 風の流れや潮の流れが変化すると思う。ニュースで潮の流れが変わったことにより、伊勢海老が三重県ではなく、静岡県で取れたと聞いた。潮の流れの変化などに産業は次第に順応すると思うが、一次産業は適応することに時間がかかると思う。今と異なるものが育ったり、取れたりするのかもしれない。産業が環境の変化に適応する方法も考えていく必要があると思う。
- 30年後の世界の環境について、いいイメージはない。ここ数年でも環境変化のニュースが多いので、30年後は地球の気温が上がって沖縄の生物が本州に生息したり、感染症が流行ったりしているなど変わっていきそう。現在の国のトップの方は30年後を考えた政策までは考えていないと思う。
- 30年後の世界の環境はあまり改善されていないと思う。しかし環境問題に取り組む姿勢は改善されると思う。今の子どもたちが環境問題について教育されているので、環境問題に関心を持つ若者が増え、将来的には環境問題に取り組む姿勢は高まると思う。一方で今まで壊してきた環境を取り戻すことは難しい。やはり環境保全より経済的な事情を重視する人が多いので、環境が完全に回復するのは難しいと思う。

【テーマ：環境問題を学ぶことについて】

○環境に関することを学んだことはありますか？どこで、どんな内容を学びましたか？

- 私の住んでいる地域では一次産業が盛んで、昔の環境について教えてくれる授業がある。小中学校では一次産業に従事する人の話を聞く機会があった。地元で長く住んでいる人の話を聞いて、環境変化が速まっていると思った。他にも自分で環境問題に関する本を買ったり、動画を見たりする。
- 小学6年生から中学1年生あたりに学校でSDGsについて習った。家族とトロントに旅行した際に風力発電や街でのごみの分別の様子を見た。ごみ箱がたくさんあるなど環境問題に対する姿勢について、日本との違いを学んだ。
- 環境問題を学べる機会は2回あった。1つ目は、学校で社会課題について学んだことである。地域の環境問題を考えるきっかけになった。2つ目は、環境問題に関する学校外部のプロジェクトで学んだことである。環境問題の講義を受けたり、プロジェクトの中で身の回りの課題を環境問題と結び付けたりする機会があった。プロジェクトの中で環境問題に関わる商品開発にも携わった。海外の研修もあり、研修でオーストラリアに行った際に、若者が環境に興味を持って立ち上げている団体があり、

環境問題に関する教育も重要だと思った。

- 学校ではSDGsについて学ばなかった。読書感想文の課題図書を読んだことをきっかけに環境問題に興味を持ち、大学や企業の環境に関する講義を受けたり、環境に関する本を読んだりした。

○学んだ内容は普段の生活や活動にどのように活かしていますか？活かしていない場合は、どうなったら活かせそうですか？

- 学校で環境問題について学んでいる。人によっては環境問題を学んだことからプロジェクトに参加したり、積極的に問題について調べたりする人もいる。一方で環境問題について「考えても改善しないよね」という考えの人もいた。環境問題を身の回りの問題とつなげて自分事として考えられないことが原因だと思う。環境問題について一人一人に責任があることを知っていくといいと思う。
- 普段からもったいないという意識を持つようになり、ごみを出さないようになった。シャワーをするときやトイレでトイレットペーパーを使うときに使いすぎないようにしている。普段の生活で活かすためには、意識を変えるしかない。授業で心動かす海や川などの映像を見せたり、実際に海や川でごみを拾うという体験をしたりしないと活かすことは出来ないと思う。
- 普段は多く買すぎないように意識し、節電することも心掛けている。また知り合いが要らない服をくれるので、気に入らなくても捨てずにバッグやクッションカバーにリメイクして楽しんでいる。要らない服をリメイクする時はわかりやすい達成感があるからいいと思う。みんなが環境にいい行動がとれるように、「〇リットルのプラスチックを分別したらペットボトルに生まれ変わる」など、行動のポジティブな影響がわかりやすく伝わるようになれば、普段の生活で環境にいい行動をとろうとする人が増えると思う。
- ものを買うときに他のもので代用できないかなど、本当に必要かどうかを考えるようにしている。本当に必要なものを買うときは、環境に配慮した商品を買うようにしている。親が買い物をして迷っている時は、環境に配慮したものを勧めるようになった。
- 環境問題に取り組んでいる人が周りにいない。オンラインで講義を受けて知り合うことはあるが、オンラインのつながりなので距離感があり、一緒に活動を始めても続かない。地域ごとに環境問題に興味がある人が集まれる場所があるといいなと思う。

【テーマ：ごみ問題とリデュース、リユース、リサイクルについて】

○普段の生活の中で、ごみについてどう考えていますか？

- ごみが資源になることの周知は進んでいる。自治体によって分別の種類やごみの袋に違いがある。できるだけ分別方法は統一してほしいと思う。
- 紙もプラスチックも分別されていない地域もある。自治体によって分別の仕方が異なる理由はあると思うが、全国で「ごみは分別するもの」という意識が広がるとより資源が活用されると思う。
- 私は離島に住んでいる。ごみのリサイクルが島の中で完結できず、離島のため船で島外にごみを出すこともできないので、ごみは島内で焼却処分される。環境省の資料で、ごみはリサイクルされるといいながら、ごみの80%はサーマルリサイクルされるとして燃やされ、その結果、二酸化炭素が排出されているので環境に良くない。熱回収ではなく循環利用としてリサイクルできるといい。また衛生面や見

た目にこだわり、プラスチックなどの過包装が多いので、売る方も気を付けてほしいと思う。

- 再生できる素材でラッピングをしている企業がいいと思う。
- 普段はなるべくロスを出さないこと、多めに買わないこと、使い切ってから買うことを意識している。
- 燃えるごみにプラスチックなどが混ざっているものもあり、完璧に分別することは難しい。分別しやすい形にするなどの努力をしている企業のアピールがメジャーになるといいと思う。
- 普段からごみが出ないようにしている。しかしボールペンのリフィルを買いたくても、全ての色のリフィルが売られているわけではないので、本体ごと買い替えることが発生する。ものがごみにならない工夫やごみとして出されないような仕組みがあると良い。例えば問題集は問題と回答用紙を別にして、問題集を再利用できるなどの工夫があるといい。
- 学校では国の指定の教科書が配られるが、私立だと国指定の教科書を使わない学校が多くあると聞いた。全ての学校に国の指定の教科書を配ることは、ごみが増えることにつながるのではないか。

○ものを長く使ったり、一度使ったものを再利用（リユース）、リサイクルしやすいように何か行動したり、意識していることがありますか？

- 博物館に行った際に、江戸時代にはリサイクルの文化があったと知った。排泄物を田畑の肥料にしていたことや、割れた陶磁器のお茶碗を修理する商売があったと知り、再利用を心掛けるようになった。
- 寮生活をしていると残飯が出るので、学校で残飯を利用したコンポストを作った。残飯にお肉があると、病原菌が発生する可能性があり、コンポストから分ける必要があったので環境に配慮することは難しいと思った。
- 私はいらなくなったものを作り替えることが趣味になっている。地域でリユースマーケットが開催されており、一定以上売り上げると特定の団体に寄付できるという流れが出来上がっている。自分が環境にいいことをして達成感を味わえたことが、自分の環境に対する意識に大きく影響した。環境に良いことをして達成感を味わえる経験がもっと広まるといいと思っている。
- 意識していることは2つある。1つ目は学習参考書についてである。自分が使った参考書に付せんを貼って使えば、もう一度使える。参考書をクラスメイトの子にあげるなどして自分の使った教材が長く使えるようにしている。また、自分が勉強する時に使う参考書は古本屋で買うようにしている。意識していることの2つ目は、何か物を買う時にしっかり考えること。考えると、考えて買ったことが思い出になって捨てにくくなるので、よく考えた結果としてものを買うようにしている。

○もののレンタルサービスや中古品の利用についてどう感じますか？

- もののレンタルや中古品を買うことに賛成である。しかし本を古本屋で買うと、本の収益は作家に入らないので作家の生活が苦しくなると聞いた。CDでも同じように作成者に収益が入らないと聞いている。古本ばかりを買っていると、作者の収益にはならないというネガティブな面もあると思う。
- もののレンタルや中古品の利用について、いい面ばかりではないと思う。環境にいいと思っているから積極的に利用したいと思っている反面、前の人がどう使っていたかわからないので若干の抵抗もある。
- 古本屋で買うと作家は収益を受け取れないという話を聞いて、自分は古本ばかり買っているのが気

を付けようと思った。

- 親戚から着なくなった服をもらうが、前に使っている人が誰かわかるので、大切に使っていたとわかる。衣服のサブスクサービスは、必要な服だけ使えるという良さがあると思うが、輸送コストがかかる。昔のように地域ごとに近場でフリマが開催されれば、輸送コストの面でも環境に配慮できると思う。フリマアプリも輸送コストがかかっているだけだと思うことがある。使わなくなったものを知り合いからもらうことは自然なものの流れ。プライバシーも守られるので、地域で中古品が回るようになるといい。
- 若者の間で古着が流行っている。古着がかっこいいという価値観が広がり、古着に抵抗がなくなっている人もいる。古着が流行していることも環境にとってはいいことなのかなと思う。
- 中古品の利用が進まない理由は、中古品を売った時に自分が得る利益があまりないということだと思う。大手の中古品取扱店に不要なものを持って行っても、買い取り額は大した額にならない。近所の人にあげようと思ってもあげる場所がない。近所の人には必要な物が似ているので、市役所などで中古品の受け渡しができる環境があるとリサイクルが進むと思う。
- 環境問題の解決につながらなくても、中古品の貸し借りがあると、人と人とのつながりが生まれ、「自分ができることを人に何かやってあげよう」という気持ちの高まりにもつながると思った。

【テーマ：環境問題に対する行動について】

○環境に良いことをするひとについてどう思いますか？

- 環境に良いことをするために神経質になりすぎている人には引いてしまうが、環境によいことを自然に出来ているとすごいなと思い、感化される。
- 環境にいいことをすることがスタンダードになるといいと思うので、そのことについてのポジティブな発信が大事だと思う。例えば私の住んでいる地域では、使用した電気量に応じて環境への貢献度がわかったり、その貢献度によってポイントがもらえたりする。発信の例として、ごみ袋に「何々をすると、何々に貢献できます」などポジティブな内容が書いてあるといい。
- 環境問題を自分事として捉えて行動する事が大事だと思う。環境にいい行動をアピールするのではなく、自然に生活に取り入れている人は尊敬できる。
- 環境に良いことをする人が偽善者のようにならなければ、みんなが応援してくれると思う。

○環境に良いことをするひとが増えるためにどのような仕組みやツール（例えば動画や資料等）が必要だと思いますか？

- 環境に配慮した高いものと、環境に配慮していない安いものがある場合、安い方を選んでしまう。大きい買い物や文房具は安い方が助かる。環境に配慮したブランドはあるが、割高と感じる。環境に配慮したものの価格が安くなったり、ブランド同士と一緒に活動して安く提供してくれたりするといい。
- 環境問題に関心があると言いながら、ペットボトルを使うときもあり、罪悪感がある。自分 1 人が行動しても変わらないと思う人もいそう。環境問題に関心がある人が集まるプラットフォームがあるといい。
- SDGs の活動を掲げている企業について、本当は環境に配慮していないのに環境に配慮しているように見せるグリーンウォッシュをしているのではないかという懸念もあるので、環境に良いことについて考

える機会があれば良いと思う。

- 定規など長く使うものを買う時に、環境に配慮した製品と配慮していない製品の価格の違いが 30 円ほどであれば、高くても環境に配慮した製品を購入する。しかし、消耗品を買う時に 100 円の違いがあると環境に配慮した高い製品は買えない。
- グリーンウォッシュについて、工場が SDGs に本当に貢献しているのかを知るために工場見学ができたリ、企業が環境問題に対して何をしているか実際に聞けたりする場面があると良い。
- 教育の一環として地域のおじいちゃん・おばあちゃん世代と子どもをマッチングさせてごみ拾いをしてもらうのはどうか。格好いい服を用意して、周りの人にごみ拾いしていることをアピールし、目立つ場所で活動すればニュースも取り上げてくれそう。ごみ拾いを地域対抗型にすれば、学校ごとに楽しんで環境問題について考えていけると思う。まずは身近なごみ問題について取り組んでいくことがいいと思う。
- 環境についてポジティブなイメージが少ない。電気量で貢献したなどポイントを知れたり、ごみが何に生まれ変わるかをごみ袋に書いてあったりなど、目に留まるかつポジティブな内容で広報されると環境にいい行動をとりやすい。
- 一人一人の責任感や行動によって環境が変わることを教育で周知し、環境問題に関心がある人同士で話し合えるといい。何か利益がないと環境にいい行動はできないので、動機づけが必要。環境に対するネガティブな面が強調されがちなので、ポジティブに取り組めることがあると良いと思う。
- 環境に関心を持つ人とつながれる場や一緒に行動できる機会があると、環境に関心を持つ人が行動しやすいと思う。
- 環境にいいことを自然にできるような環境づくりが必要だと思う。

4班（大学生世代2名）

【テーマ：環境問題に対して思うこと】

○環境問題について知っていることは何がありますか？

- 森林伐採、プラごみ。
- 気候変動、生物多様性危機、熊が市街地に出てきてしまう等の獣害、里山の再生。
- 電力ひっ迫。
- 水質汚濁、公害。公害は四日市ぜんそくのような大気汚染など、幅広い意味での公害を想定。

○環境問題に生活を脅かされると感じたことはありますか？

- レジ袋が自由にもらえなくなったこと。自分はファミレスによく行くが、これまで普通に置いてあったストローがなくなっており、店員に言わないと紙ストローがもらえない状況になっている。また、少し郊外にあるコンビニに行ったところ、「電力ひっ迫のため電力を落としています」と張り紙があり、真っ暗でびっくりした。コンビニは明るいものというイメージがあり、「え、暗い」と思ってしまってびっくりした。
- 今年 11 月の異常気象を見てもそうだが、年々気候変動が進んでいると感じる。ヒートアイランド現象でかなり暑くなっている感じがある。年上の人から昔はエアコンがなかったと聞くと、今では考えられない。また、都市には緑が少なく木陰が少ない。自分の地元だと、地主の家にあった屋敷林や、自分の家の周りにあった木陰が全て伐採されてしまった。地図アプリの航空写真で自分の住む町を見ても、近隣がはげ山だらけになってしまった。こどもの頃と比べても木陰が少なくなっていて、生活を脅かされている気がした。
- 自分が小学生の頃には夏でもエアコンがなくても過ごせていたのに、気候変動の影響で、今はエアコンがない生活は考えられない。また、設定温度を低くしても涼しくならないし、暑さでエアコン自体が壊れてしまうこともある。文明の利器が気候に追いついて行けないのが不安である。
- 最近熊が人里に下りてきている問題について、母親の知り合いが山の上でレストランを経営している中、猪に畑の野菜を食べられる被害が深刻らしい。そういうことがあると、おじいちゃんおばあちゃんにできることが体力的にも限られるのでますます過疎化が進むし、人がいなくなることで里山の荒廃が進んでいくと思う。
- 家の裏が山になっている。すごく緑が豊富だったのだが、竹や木が知らない間に伐採されていた。竹は、大雨の際には自然のダムとして頑張ってくれていたが、今は伐採されたので泥水が出てくることもあり、土砂崩れが心配である。
- 人間だけではなく動植物もダメージを受けている気がする。自分たちは生態系から得られる利益である生態系サービスの上で生きている。身近な例だと、例えば土は、生態系サービスの中の調整サービスとして、川があふれても雨水が浸透して「緑のダム」の役割を果たす。しかし、今の河川の周りはコンクリートなので、水があふれてしまい水害につながる。

○日本の環境問題に対する取組は進んでいると思いますか？

- 環境省の取組は「気候変動」「動植物系」「自然系」に分かれていると思うが、循環型社会や気候

変動、そして公害などの大気汚染などへの対策が思いつく。環境省だけではできないことを国土交通省や文化庁も巻き込んで進めているらしい。具体的には、環境省は数が減っている動物の所管をしていて、カモシカや沖縄県のヤンバルクイナなどの天然記念物の数を増やす取組をしている。天然記念物は国の財産であり、文化庁の許可がないと動かすことが出来ないため、環境省と文化庁は連携して天然記念物の保護を進める必要がある。

- ニュースを見ている、環境省は気候変動等には取り組んでいるものの、動植物や生態系については取組が遅れている感覚がある。理由の1つは、動植物について扱う場合に博物館や動物園、大学などの研究予算が足りないからだと考えられる。以前、博物館でアルバイトをしていたが、木を調査しようとしてもお金がないので10年に1回しか調査できないということであった。また、環境省には国立公園などを管理するレンジャーというプロフェッショナルがいるのだが、日本はそうしたプロフェッショナルの人数が少ない。例えば、日本だと熊や猪が市街地に出ると警察官が出てくるが、よく考えるとなぜ警察官が対応するのかと思う。本来はプロフェッショナルが対応すべきところである。以前、関係者に話を聞いたときには、やはりさすまで野生動物を捕まえるのは難しいということも言っていた。また、以前、地元議会の議員と話した時に、前にサルが市街地に出てきたときに、教育福祉担当のその先生のところに役所からそのサルの捕獲許可について尋ねる電話がかかってきたと聞いた。この一事を見ても専門家が足りないということを感じる。
- 身近なところではレジ袋有料化が大きな取組だと思う。母がレジ打ちの仕事をしているが、お客さんのマイバッグが汚かったり、破れたレジ袋を持ってくる人がいたりすると聞いた。レジ袋をゴミ袋として使うため、結局レジ袋を購入したり、100円ショップなどで袋を買ったりするらしい。そのため、結局プラスチックごみは減っていないのではないかと考えている。国が考えた取組ではあるものの、抜本的な解決にはなっていないのではないかと。目先のプラスチックごみは減るかもしれないが、それだけでは大きな環境問題すべては変わらない。また、数年前まで森林伐採を気にしていたのに、今では紙ストローが推進されているのも心配になる。プラスチックの減少と森林伐採の減少の両方がうまくいこうとしないと環境問題の解決は難しいのではないかと。
- お昼に食べた寿司についていた箸に、「成長スピードが早い竹を使っている」と書いてあった。同じように持続可能なレジ袋やストローを考えられるといい。木だと成長に時間がかかるし、森林伐採の問題もあるので、そこを解決できるような案があるといい。全部禁止するのではなく、代替案を考えられるといいのではないかと。
- 日本は木が多い国だが、逆に杉やヒノキが多すぎて困っている。竹も増えすぎて困っており、コンクリートの家をぶち破るくらい繁殖力が強い。木の使い方が上手くない。企業が木造ビルを作りたいということを考えていたりするのだが、木を使うということがなかなか進んでいない。木が余っている。
- ごみの分別について、街中に設置してあるごみ箱は「燃えるごみ」「燃えないごみ」という分け方をしていると思うが、言ってしまうと、燃えないごみも燃やそうと思えば燃やしてしまうため、何でも燃えるごみとして捨てる事が出来てしまう。まだリサイクルボックスの普及が進んでいない気がする。燃える・燃えない・ペットボトル・その他で分けられていることが多いが、ペットボトルは中身が残っている状態でごみ箱に入れる人もいるし、カフェのテイクアウトのカップを入れるような人もいる。そういうごみがリサイクル

できるものに混ざってしまうと、他のものもリサイクルができなくなってしまうと思う。リサイクルに対する意識が高くないと、効果的な対応ができないと思う。

○30年後の世界の環境はどのようになっていると思いますか？

- 現在でも、企業・個人どちらに対しても、環境に配慮した規制が増えている。例えば、ガソリン車を販売しない、レジ袋やビニール袋は有料化する、など。国民の生活が窮屈になっていくのではないか。
- 気候変動を見ると気温が上がっているのは明らか。夏がより暑くなると、日本でも熊谷あたりだけではなく他の地域でも 40℃を超えていくことになる。そんな場所で人間は暮らしていけるのかという課題意識がある。夏の環境を想像すると、家にこもる人が多くなるのではないか。散歩しているお年寄りや子どもたちも、熱中症のリスクが高くなって夏は見られなくなるのかもしれないと思う。暑くなると自然災害のスケールも大きくなる。一方、良い面としては、規制をかけていっているのが、逆に夏が過ごしやすくなっていくかもしれない。また、日本は少子高齢化で人口が減っているのが、30年後には動植物が過ごせる場所が増えているかもしれない。
- リモートワークが増えて田舎に引っ越す人が増えたというニュースを見た。ただ、田舎に引っ越すと田舎の自然を壊すことになるのではないか。人口増といういい面はあっても、自然の側面での懸念や、コミュニティがぎくしゃくしてしまうのではという懸念がある。

【テーマ：環境問題を学ぶことについて】

○環境に関することを学んだことはありますか？どこで、どんな内容を学びましたか？

- 最初に環境について学んだのが小学校低学年のとき。ごみの分別や 3R など、ごみを減らそうという取組について学んだ。中2になって、SDGs のことを初めて学んだ。環境については中学でも高校でも授業で扱っており、学校では常に学ぶ機会がある印象。
- 最初は小学生の時にごみ問題を学んだ。本格的に学んだのは高校を卒業して専門学校に入ってからで、環境問題について農林業絡みや、環境と経済の関係、環境教育など、がつつり学んだ。ただ、領域が自然分野に偏った内容だったので、学生時代にもう少し幅広く学んでおけばよかったと思う。学校以外だと、山梨県のやまねミュージアムに行ったのが最初。ただ、本格的に学びはじめたのは、専門学校で「色々なところで色々な学びを得てこい」と先生たちに言われてから。沖縄県で動物保護の活動をされているところに参加したり、山に木を植えるというプロジェクトに参加したり、博物館でバイトしたりした。こういったことを通じて学びを得てきた。
- 中学生の時に、自然教室という修学旅行の自然版のようなものがあった。長野県に行って、木の保護活動をしている方から、この森はどうやって守っているか、森は自然のダムだからむやみに伐採してはいけない、などといったお話を聞いた。

○学んだ内容は普段の生活や活動にどのように活かしていますか？活かしていない場合は、どうなったら活かそうですか？

- ごみの分別は小さいころから教わっていたため、わからなかったら表示を見て燃えるごみ・燃えないごみ

の区別ができていた。リサイクルできないものがリサイクルボックスに入って、リサイクルできるものが汚れてしまうとリサイクルできないと聞いてからは、洗ってから捨てるようにするという形で活かしている。

- がっつり学んだはずなのだが、あまり活かせていないかもしれない。分別は結構やっている。バイト先が酒屋なのだが、瓶の回収活動をしている。お酒はどうしても飲み残しから匂いが発生するので、闘いながら回収をしている。
- 学びを活かせるよう、学生時代にごみ問題をより学んでおけばよかった。また、祖父母が庭のある家に住んでいるので、庭を借りて動植物や野鳥を見たりしたい。それから、環境教育に関する有名な資格があるのだが、頑張っ取得して、自分の住んでいる地域に生かしたい。
- プラスチックごみを減らすためにプラストローが減っていて、ストローを使わないで飲もうという取組がある。ただ、自分は持病の関係で朝起き上がれないことがあるので、曲げられるプラストローを使っており、プラストローを使う側になっている。また、自分は学童でアルバイトをしているが、こどもから「ごみは洗ってから捨てるんだよ」と言ってくれることがあり、分別についてこどもは敏感だと感じる。むしろ自分たちや年配の先生の方が「洗わずに捨てちゃっていいんじゃない」「洗うのは大体でいいんじゃない」という反応をしがち。上の世代が環境に配慮するという教育を受けていないのではないかと思った。

○SDGsを含め他のことを実践できていますか？

- 普段の生活で、使っていない部屋の電気を消す、コンセントを抜くといったことは自然にできている。
- 持続可能という視点でいうと、ものを長く使うことは意識している。傘とか合羽でも洗って使い続けるようにしたり、祖母は手芸が得意なので服が破れたら直してもらったり、衣類が使えなくなったら雑巾にするなどしている。
- 学校で習ったことも、自分で学んだこともある。捨てられるはずのものに新しい価値を与えるアップサイクルを家で実践することもあるし、学校でも移動教室のときは部屋の電気を消すことがルールになっている。学校でも家でも実践している。
- 学校で習ったものも家で親に聞いたものも両方ある。自分の地域だと、自然が多くて合羽を酷使する。なので、大変だけれど手洗いして長く使おうということを学んだ。

【テーマ：ごみ問題とリデュース、リユース、リサイクルについて】

○普段の生活の中で、ごみについてどう考えていますか？

- ごみを減らす観点からすると、マイボトルを持ち歩いたりするのがよいのだろう。一方、夏場は衛生面が気になるので、ペットボトルが便利だと思っている。わかっていながらも実践できていない部分はある。
- マイボトルを持つことが多い。学生時代に、ペットボトル飲料なんて売っていない場所にフィールドワークに行ったので、そこでマイボトルを持つ習慣がついた。また、町中のごみ箱が減っているような感覚がある。マイバッグが増えてごみが減っているのではないか。
- 周りでは、最近折りたためるマイバッグを常に持ち歩いていて袋を買わない子を見かける。また、ごみ箱に分別して捨てる人や、ごみ箱がなければ持ち帰ることを徹底している人が多い気がする。
- 学校では、マイボトルを持っている人や、環境に配慮した服を着たりする人も多かった。以前、こども

たちと一緒に木を植えるイベントに参加したときに、山にごみやボルトなどがたくさん落ちていたが、ごものいる場所にボルトを落とすのはリスクがあるので良くないと感じたし、驚いた。また、高速道路でポイ捨てる人が未だにいるらしい。港区に自然教育園という場所があり、非公開エリアは高速道路に近いのだが、そのエリアに大量のごみが落ちているのを見た。びっくりしたし、人が見ていないところではこれだけごみを捨てる人がまだいるのだなと思った。

○ものを長く使ったり、一度使ったものを再利用（リユース）、リサイクルしやすいように何か行動したり、意識していることがありますか？

- PCの液晶画面が去年はがれてしまい、本当は良くないのだがマスキングテープと両面テープを用いて修理した。テープがぐるぐる巻きになっている状態だが、1年以上使えている。プラスチックや金属が多く使われているものを長く使えている。この前はスポーツドリンクをこぼしたが、一晩干したら普通に使えている。こういうことを通じてPCを長く使えていると思う。
- 大学生になってから、良いものを長く使おうという意識が芽生えた。以前は安いけど粗悪品、ただかわいいから1シーズン着られれば良いと思って使っていた。しかし、「値段は張ってもいい生地を使っているから長く着られる」というものを買うようになった。また、スマホを長く使うようにしている。友達で机の上に投げたり雑に扱っている子はいるが、そういうことをしないように気を付けたり、衝撃に強いケースを用いたりしている。スマホに使われるレアメタルも大切にしていきたい。

○もののレンタルサービスや中古品の利用についてどう感じますか？

- レンタルに入るかわからないが、レンタルビデオやシェアリングエコノミー・カーシェアなどが思いつく。中古品だとリサイクルショップが思いつくところ。
- レンタル充電器、レンタル自転車、古着などが思いつく。
- 前は誰かが使ったものや着たものに抵抗があったが、古着だとヴィンテージのものがあつたりして、誰かが使っていたり年数を経っていたりするからこそ味があってよいというものがある。自分はレンタルに抵抗があるタイプではあるが、古着は着るようにしている。
- レンタルビデオ店が近隣にあったのでよく使っていた。家族でよくキャンプをするのだが、最近ではテントのレンタルができるようになったらしい。キャンプ用品は大きいので、移動させたり、干したりするのが大変で、レンタルは良いと思った。また、中古品だと自分は古本が好きで、70年以上前の本を持っていたりもする。また、昔の本と今の本とで環境問題というテーマであっても比較できたりして面白い。意外と今に通じる場所があつたりする。

【テーマ：環境問題に対する行動について】

○環境に良いことをするひとについてどう思いますか？

- 親が、環境教育をする幼稚園にいたことがある。幼稚園の先生は周辺環境の再開発の話が持ち上がったときに「再開発しないでください」と主張したそう。他にも、神奈川県丹沢山地に関わっている先生が、環境省や地元の自治体を巻き込んで自然保護運動をしている。すごいと思って見ている。

- 環境保全についての教育をしている人の存在が大きいと感じている。自分や学童の子どもたちが環境保全について意識高くいられるのは、学校の先生が教育をしてくれるおかげだと思っている。学校の先生は、「環境保護について自分が知っていないと周りに教えられない」と思って、授業の準備をしているのだと思う。先生自身が知らなかったことを知って子どもたちに伝えることもあると思うので、そういった先生たちはすごいなあと思う。

○環境に良いことをするひとが増えるためにどのような仕組みやツール（例えば動画や資料等）が必要だと思いますか？

- 人を増やすためには、未来を担う子どもたちが自然とともに生きることが大事だと思う。これは環境教育をしていた幼稚園のモットーでもあった。日本は四季があるし、北には流氷、南には沖縄のサンゴもあるという美しい自然のある国だと思うが、その自然を守ったり活かしたりする意識のある子どもが宅地化や都市化の影響で減ってきたと思う。自然のかけがえのなさを活かせるということを五感で知ることが大事。例えば、神奈川県のとある団体では子ども向けの取組で、ライフジャケットをつけずに子どもを川に入れて「遊んでごらん」と言ってみるなど、子どもの感性を伸ばす自由度の高い取組をしている。そうした取組をしている小学生たちは猪や熊の問題をよく知っていてびっくりした。子どもの原体験はすごく大切になると考えているので、子どもたちには自然をもっと知ってほしい。都市部だと気兼ねなく自然に親しめる場所が少ないので、そういった場所が増えてほしいなと思う。
- アルバイトをしている学童の近くの保育園は自然と触れ合う場が多い。その保育園出身の子は環境問題など自然に対する意識が強く、学童のおやつ時間に「ごみの捨て方はこれでいいんだよね」と聞いてくることもある。子どものころの体験はすごく重要になると思うので、都市部に住んでいる人でも自然に触れあえる体験を増やしていくのがよいと思う。また、最近衝撃を受けたのは、カプセルトイのコーナーに、空のカプセルを入れるとガラガラと回って楽しめる空カプセル回収用のリサイクルボックスがあったこと。規制ばかり増やして何もかも禁止にして窮屈な生活にするよりは、楽しんで環境問題に取り組めることが必要だと思う。また、子どもと同じように、お年寄りにも環境への取組をしてもらうことが重要だと思う。「環境問題には子どもや孫の将来がかかっている」ともっと危機感を持ってもらえるようにし、年齢・性別関係なく環境問題へ取り組んでもらう姿勢が大切だと思う。

○大人はどうしたら行動が変わると思いますか？

- 大人だと価値観が固定化されてしまうので難しいところもあるが、大人が子どもと一緒に環境に関するイベント等に参加すると発見もある。日本では気候変動や動植物への意識が低いということがあるので、生態系サービス、つまり生き物たちからすぐ利益をもらっているということを大人にも広めれば、私たちが自然の上に生きているということがわかると思う。
- 自然災害が増えてきて、それに伴って都市部でも地域での防災訓練が増えている印象。そうした人が集まる場で、大人も一緒に受け取りようとなるような、子ども向けでない環境教育をやっていくことも大事なかなと思った。

○まとめ・その他

- 環境省に伝えたいこととして、日本は気候変動や公害、循環型社会、3R に目を向けがちで、動植物に目を向けることが少ない。林野庁とも連携して頑張ってもらいたい。専門家も増やしてほしい。C.W. ニコル先生が言っていたように、レンジャーが必要で、プロフェッショナルを増やしてほしい。子どもたちに自然を生きる、原体験を持つということを大切にしてほしい。幼児教育の権威である城戸幡太郎先生や、三笠宮崇仁親王殿下も、子どもたちへの環境教育が大切だと言っていて、昔からそのように言われているので、ぜひ取組を頑張ってもらいたい。
- 今日気候変動が議論のメインになるかなと思っていたが、結構動植物の話もできた。専門用語を使いすぎたので、もうちょっとわかりやすい表現を使った方がよかったなと思う。子どもの原体験が大切という話に行きついたのがとてもよかった。
- あまり環境問題への専門知識はない状態での参加だったがすごく勉強になった。私が一番思うのは大人への環境教育の必要性である。大学生の私たちくらいまでの子ども・若者は小さいころから環境問題に取り組んでいたりSDGsのことを学んだりしているが、自身の母にSDGsのことを伝えたら「何それ？」「どういった内容なの？」という反応で、全く知らないような状況だった。多くの人が集まる場、たとえば地域の防災訓練の時に、あわせて「環境を大切にしていこう」と伝える地域ごとの取組も大切なんだろうなと思った。
- 「国が言っていることだから取組もう」だと他人事になってしまう気がするので、「今、赤ちゃんである子どもたちを守るために私たちに何ができるか」というような視点で、もっと小さい規模で、でも多くの場所で環境教育をやっていけるといい。
- 個人的には規制を増やして狭めていくのではなく、人々の環境への意識を高めていき、環境問題について取り組みたいと思ったときに取り組めるように、例えばカプセルトイのカプセルを楽しくリサイクルできるようにしたり、ものを洗って捨てたくても洗う場がなかったりするので洗う場をつくるなどして、誰もが環境問題に取り組みやすい社会になるといいのかなと思う。

いけんひろば後のアンケートでお書きいただいた意見

【環境問題に関する周知について】

- 「〇〇をこれだけ集めるとこんなにたくさんの××に生まれ変わる！！」というような、分別するときやる気になるようなデザインをゴミ箱や収集車に施したり、包装に書いてあったりと、小さい行動のポジティブな面の周知が多くなってほしい。

【環境に関する専門家・施設について】

- 環境省・林野庁・地方自治体・民間を含めて、銃やわなを扱えるレンジャーが少ないので必要。理由は、人と野生動物の共存や個体数調整（人がシカなどを駆除で減らすこと）を目指すワイルドライフマネジメント、共存調整のもとになるフィールドワークを行えるプロだから。
- 専門家について、野生動物に携われる獣医師、看護師や傷ついた動物のリハビリを行うリハビリテーターも合わせて必要。
- 博物館での生物多様性の学術サポートにはバックアップが必要で、そのバックアップを行うために自然史博物館が必要である。

【環境に対する大人の意識について】

- 元環境省の方は、「今欧州では環境問題の抗議運動として絵画にペンキを塗る若者が問題になっている。あれは良くないが日本の若者も怒りを大人に伝えても良いのではないか」と言っていた。そうした活動が大人へのプレッシャーになる。
- 地方部の年配の方は意識が高いことが多い。持続可能性や生物多様性に配慮した六次産業の木工製品、蜂蜜などの食品の購入を介すると、都市部の年配の方にも環境に対する意識が伝わるかもしれない。（上記のような品物を買うことで環境を守ることにつながる、環境のことを知る）
- 旅行会社・鉄道会社・宿泊関係の方に協力していただき、大人の環境教育のツアーのエコツアーリズムを大々的に実行するのはどうでしょうか。上高地のファイブセンスさんや軽井沢のピッキオさんが参考になるかと思います。